

# 派遣留学生帰国報告書

\* 帰国(復学)後の情報を入力してください

記入日	2019/6/14
所属学部・ 研究科・学府	国際教養学部
所属学科・専攻	国際教養学科

## 1. 留学先について

留学先大学名	The New School											
留学先所属学部等	Eugene Lang Collge of Liberal Arts											
留学期間	出発日	2018/8/19	入学日	2018/8/21	修了日	2019/3/5	帰国日	2019/3/29				
住居	<input type="radio"/> 大学(紹介)の寮・アパート		<input type="checkbox"/> 民間アパート		その他( )							
	通学時間	20分					On campus					
	通学方法	徒歩										
	居室スペース	<input type="radio"/> 個室	( ) 人部屋		その他( )							
	共有スペース	<input type="checkbox"/> 完全個室	<input type="checkbox"/> キッチン	<input type="checkbox"/> トイレ	<input type="checkbox"/> バス	<input type="checkbox"/> リビング	その他( )					
食事	自炊	%	学食	<input type="radio"/>	%	外食	<input type="radio"/>	%	その他	( )		
保険	海外旅行保険(名称)	t@biho たびほ										
	派遣先大学指定の保険(名称)	なし							<input type="checkbox"/> 強制加入			
	その他											
渡航ルート	ex.) 成田⇄シカゴ(飛行機)⇄ウィスコンシン(電車)											
	成田 ⇄ JFK空港(飛行機) ⇄ Manhattan(Uber)											

## 2. 留学にかかった費用について

総費用	4,276,900 円										
自費	<input type="radio"/>	貯金	800,000 円	<input type="checkbox"/>	アルバイト	円	<input type="checkbox"/>	その他	円		
援助	<input type="radio"/>	両親	2,676,900 円	<input type="checkbox"/>	家族・親戚	円	<input type="checkbox"/>	その他	円		
奨学金	<input type="radio"/>	JASSO	800,000 円	<input type="checkbox"/>	その他名称( )	円					
その他		千葉大学助成金	円	<input type="checkbox"/>	その他( )	円					

## 2-1. 財政管理の方法

渡航時	<input type="radio"/>	現金	100,000 円		その他 ( )	円
留学中		海外送金	<input type="radio"/>	キャッシング	<input type="radio"/>	その他 ( クレジットカード決済 )

## 2-2. 各費用の支払い方法

大学に払った費用	クレジットカード事前支払い
住居にかかった費用	クレジットカード事前支払い
その他	

## 2-3. 内訳

費目	外貨金額		円貨金額	
	通貨単位			
渡航費(往復)	\$	5,000	550,000	円
海外旅行保険			240,140	円
OSSMA			29,160	円
査証・在留許可証			17,600	円
住居	\$	24,950	2,600,000	円
食費	\$	6,000	650,000	円
通学に要する交通費			0	円
教科書、教材費	\$	450	50,000	円
その他大学に支払った経費	\$	370	40,000	円
光熱費	込みのため不明		込みのため不明	円
その他 ( )				円
その他 ( )				円
その他 ( )				円
その他 ( )				円

## 3. 学業面

履修科目名	種類 <sup>ex.正規、聴講</sup>	単位数	単位互換認定申請の有無		
			<input type="radio"/>	有	無
1 Intro to Screen Studies		3	<input type="radio"/>	有	無
2 Intro to Cinematgraphy		3		有	無
3 Intro to Editing		3		有	無
4 Media Toolkit		3	<input type="radio"/>	有	無
5 Art, Activism, and Revolution		4	<input type="radio"/>	有	無

6				有		無
7				有		無
8				有		無
9				有		無
10				有		無

### 3-1. 授業科目の選択、登録方法

The New Schoolの授業は基本的に10人～20人程度の小規模クラスであることに加え、留学生は履修登録の開始が遅い設定になっていることから、取りたい授業科目がすでに満席であることも多かった。履修登録の開始時期は年によって前後するが授業開始の二ヶ月前くらいに案内があった。登録方法はオンラインの専用ページからの登録になる。

### 3-2. 授業内容、方法に関して

Intro to Screen Studiesという映画分析の授業は毎回指定された映画を見て分析していったそれをもとに議論をしたり、同時に課されるリーディングと合わせた議論をするなど、80人規模の大講義ではあったが議論ベースで進んでいく授業だった。並行して各時代における特徴的な映画を抑えていくため、簡単に映画史をまなびながら、どのようにそれらがのちの映画に影響していったかについても学んでいく。

Intro to Cinematographyという撮影の授業はドキュメンタリー映画の監督が小規模プロジェクトにおける撮影をどのように進めていくかについて実践的に教えてくださる授業で、毎回なんらかの撮影に関する課題が出されて時にはペアやグループで取り組むこともあった。一眼レフで動画や写真を撮ったことがない場合は最初かなり戸惑うことも多いかもしれない。

Intro to Editingという編集の授業はAdobePremireを使いながら隔週で出される映像編集の課題を軸に進められていった。基本的には基礎から教えてくれることになっているがそれでも編集ソフトを全く使ったことのない人はかなりキャッチアップするのが大変かもしれない。また映像編集の歴史についても並行して学ぶ。

Media Toolkitという様々なメディアを取り扱うソフトウェアの使い方を学ぶ授業では、AdobeのPhotoshop, Premire, Auditionなど静止画や動画、音声ファイルの編集について基礎から学ぶ。並行してメディアを編集するということがいかなる「政治性」を持つかについてもリーディングなどを通して学んでいく。

Art, Activism, and Revolutionというアクティヴィズムとアートについての授業では、アメリカ独立革命からフランス革命を経て、奴隷解放運動やアフリカの独立運動、フェミニズムさらには#metooにいたるまでのさまざまな広義の革命において表象(representation)がどのような影響を及ぼしたかについて俯瞰的に学んでいく。

### 3-3. 語学力について

事前にIELTS7.0以上のスコアが必要であったが、それでも専門的な内容の議論についていくためにはかなりの準備が必要であった。The New Schoolは少人数制のディスカッションやグループワーク、ハンズオンベースの授業が多いことから、常にコミュニケーションをとることが重要でまたディスカッションのために事前に読んでいく課題や、私の場合は映画の授業も履修していたので事前に見ていかなければならない映画なども指定されており、字幕なしのデータしか配布されないためそれらも理解して分析できるように準備せねばならずかなりの英語理解能力と知識、ボキャブラリ、表現力が求められた。

### 3-4. 図書館など学内施設について

The New Schoolの図書館はあまり大きくないが、近隣のNYUの図書館を利用することができるためそちらを利用することをオススメする。私は撮影や編集などの授業もとっていたため様々な撮影録音機材などを使用する課題も多かったが、機材は基本的に学内の施設で無料でレンタルできるようになっており、そのような施設は充実していた。

### 3-5. その他

## 4. 生活面

### 4-1. 住居について

何か困ったことなどがあつた際に安心できるように少し高いが大学の寮を選んで入居したが、有事の際に大学側がほとんど対応してくれず結果としてパニック症状やその他心身への影響を及ぼす結果となった。

大学からあまり遠くないところに住居を確保できるという点で大学の寮は便利であるが、管理はあまり十分に行き届いておらず、マンハッタンの建物全体に言えることではありそうだがインフラは古くネズミがかなりの数住み着いていたりすることから、そういった面での生活に不安がある場合は事前になんらかの対策を取る必要あるとわかった。

### 4-2. 食生活について

マンハッタンでの食費はとにかくかかるため、真面目に三食食べようと思うと食費の出費はかなり高くなる。

かといって課題がきついため自炊する余裕もあまりない。日本食を振る舞う日本チェーンのレストランやファストフードもあり、日本人の経営するデリなども一定数あり、日本食が恋しくなることはないが、日本の二倍以上の価格になるため、毎日食べることは難しい。

大学のカフェテリアは高くあまり美味しくなく、カフェテリアのキャパシティも低いためお勧めできない。またミールプランは割高なので入る必要はなかったと考えている。使いきれない分は換金できず、学校へ寄付することになるので注意が必要。

### 4-3. インターネット環境、携帯電話について

大学内、大学の寮内では高速無線インターネットが繋がり快適であった。

携帯電話はSoftbankのアメリカ放題に加盟していたため現地でもそのままのSIMでSprintの電波での4G通信が快適にできた。

サンフランシスコへの旅行の際に、現地で購入した最新機種のiPhoneXS Maxが肩に開けていたカバンからすられてしまったので、iPhoneユーザーは必ずAppleCare+ Theft and Loss に加入すべき。

### 4-4. 服装について

冬は毎日マイナス18度～マイナス20度が続く時期があり非常に寒い室内は非常に暑いので、半袖の上に分厚いコートを着ることもあった。調節がしやすいような服が良い。冬用に分厚いコートは必要。あとは安い服はTARGETなどで調達できるため、夏からの留学であれば、徐々に現地調達することで、それほど持っていなくても困らないかもしれないと思った。またマンハッタン内に数店舗ユニクロもあるのでサイズなども安心。

## 4-5. 健康管理について

睡眠をとること、食事をとることなどでできるだけ配慮して、大きな病気にかかったり怪我をすることもなく半期を過ごすことができたが、冬休みを経て春学期に入る直前に寝室にネズミが出るようになったことからパニック発作やその他心身への症状が深刻化するようになり、日本人の先生がいる医者へかかって精神安定剤を処方してもらったり、学校のカウンセリングやセラピーを受けるようになったが、寮の管理をしている大学側の対応が十分でなく、根本的な解決に至らなかったため、結果として心身ともに改善することはなく、それを主な理由として中断して帰国することになった。

## 4-6. 保険、OSSMAの利用について

カリフォルニアへの旅行時にサンフランシスコのバーガー店内でカバンの中のiPhoneを盗難されたが、警察に届け出ておいたことにより、加入していた保険に全額請求することができたか。  
また、パニック症状などの精神症状がでたときに、保険の対応している日本語を話すことができる医者のある病院に保険の範囲でかかることができたため、安心して診察を受けることができた。またその場で支払わなくてよかったため費用の支払いの面でも利便性が高かった。

## 4-7. 課外活動について

授業のための課題や準備をたくさんやるがあったため課外での活動はしていない。

## 4-8. 学外のコミュニティとの交流について

ほとんどしていない。

## 4-9. 日本から持参してよかったもの

水やお湯を注ぐとできる麦茶の粉。ティーバッグや他の携帯と異なりゴミが最小限で済む。意外と現地の日本食店舗には置いていない。

## 4-10. 日本から持参したが不要だったもの

味噌汁、たまごスープなどの簡単な日本食。日本食のデリですぐに手に入る。

ヒートテック系の下着。室内が暑すぎて着てられない。

## 4-11. 現地での対人関係について気づいたこと(習慣の違い、マナーなど)

アメリカ自体には何度か行ったことがあったためあまり改めて気づくことはなかったが、NYに限ってなのはわからないが、とにかく歩行者は信号を守らない。

## 4-12. 余暇の過ごし方

## 旅行

【カリフォルニア州ロサンゼルス、サンフランシスコ(観光)】2018年12月(7日間)

その他 \* 気分転換やストレス発散法など。

もともと自分の研究が映画やミュージカルなどを対象としているものもあるが、気分転換や放課後の余暇としてブロードウェイのミュージカルや、大きなスクリーンのシアターでの映画鑑賞ができたことは自分にとってはとても幸せだった。ブロードウェイのアクターたちが本業とは別に行うミニライブのようなもののチケットも何度か入手し鑑賞した。また学生証がマンハッタン内の美術館や博物館のフリーチケットの役割も果たすので、度々美術館や博物館にも足を運んだ。

## 5. その他

## 5-1. 留学先大学について

授業は非常に質が高く、学生も意欲が高い。教員はかなりの数が非常勤のようだが、その分実際に映画や舞台などの現場で実際に活躍されている方のお話を聞いたり、その先生たちに直接ハンズオンで教わったりすることができるため非常に魅力的である。しかし生活面でのサポートなどは、非常に事務的でビジネスとしての考えが第一であり、どれほど目の前で学生が困っていようと、契約にない対応はせず、また例外対応は基本的にない。

## 5-2. 留学希望者へのアドバイス

ファッションやデザイン、アート、映画などについて最先端の刺激が欲しいのであれば、いまの千葉大学の協定校の中ではダントツでお勧めできる学校の一つと思われるが、「アメリカ的」対応は非常にビジネス重視で契約の範囲でしか対応してくれず柔軟性に欠けるため、トラブルがあったときに自分がどれだけ適応できるか、交渉できるか、交渉の余地がなければ、心身の限界を迎えないようにしながら我慢できるかが大きく関わってくる。

私は事前にアメリカのニューヨークに何度も行ったことがあり、頼れる知り合いも何人かいたが、それでもネズミをきっかけに心身に不調をきたしてからはどんどん状況が悪化していき改善することができなかったため、いつ自分に何があるかわからないことや、千葉大学の留学生支援課は物理的には何も助けはくれないことを肝に命じてある程度の覚悟を持って留学に望むことが必要。

## 5-3. 留学を終えて

自分の千葉大学における研究につながる面や、今後のキャリアの観点からも非常に充実した学びが得られた。

一方で、生活環境の問題から甚大な心身への影響を被ることになり、中断せざるを得なくなったことは悔やまれる。

しかしそのこともまた一つの糧として、今後アメリカで学んだり仕事をしたりすることを考えている身としては、どのように生活していくかについて考えるきっかけにすることができた。

納得して中断することができているので後悔はない。